2007. 12. 1

（Japanese Academy of Learning Disabilities）

日本LD学会会報 第63号

事務局：〒320-0851 宇都宮市鶴田町687-9 ムギショウビル3F TEL.028-649-0090 FAX.649-3318
URL. http：//www.soc.nii.ac.jp／jald／

「胸騒ぎ」が共有されるために

筑波大学
石 隈 利 紀

先日中学２年生Ａくんの事例について、学校の先生から相談を受けた。Ａくんは、7月頃から学校を休んでいる。テストの成績は、全般的にかなり低い。先生によれば、Ａくんは中学校１年時は「とくに問題のない生徒」だと学校では捉えられていた。「問題行動」を起こすことも、授業を妨害することもない。ただ授業中に寝ることが多いのが、少し気になっていたと言う。Ａくんについての情報を整理すると、学力の問題の背景に読み書きの困難さがあるようだ。そして「明るい性格」で友人は何人かいるが、自分が勉強ができないことをいつも気にしている。

この事例を聞いて、どうしようもなく、辛く、悔しい気持ちになった。Ａくんの「授業中に寝るというSOS」に対して、先生は気づいていた。でもその胸騒ぎは共有されることなく、具体的な援助も行われなかった。保護者の方も心配されていたに違いない。Ａくんの不登校は、よく分らない授業をがんばって受け続け、心身共に疲弊した結果かもしれない。

学校は多くの課題があり、先生方はとても忙しい。新しい教育課題がノボリとしてあげられる。ノボリは整理されることなく、増えていく。先生方は子どもの苦戦に気づきながら、多忙な日々のなかで胸騒ぎに応じて動くことが難しい。すると子どもはSOSを出さなくなるか、学校に来なくなる。SOSを行動で示す子どももいる。

子どもの特別な教育ニーズに応じる特別支援教育は、不登校・いじめ対策、確かな学力、生きていく力など、私たちが取り組んでいる多くの課題に共通する「一人ひとりの子どもの教育ニーズに応じる支援」という大きなノボリである。それぞれの学校のなかで、特別支援教育が生徒指導・教育相談、教科教育等との関連でしっかりと位置づけられる必要がある。そして日常の情報交換、学年会、校内委員会等で、子どもの学校生活に関する気づきと胸騒ぎがきちんと共有され、意味づけられることが、具体的な援助につながる。特別支援教育に関して、学校組織としての意識化と援助の当事者としての意識化が鍵を握る。